



令和4年9月15日

担当課	文化振興課 博物館
担当者	前田・清水
電話	073-423-0003

和歌山市立博物館 秋季企画展

「発掘された江戸時代の暮らし」



江戸時代、城下町和歌山は全国でも有数の人口をもつ大都市だったと言われます。それを物語るように、近年の和歌山城周辺の発掘調査でも、土器をはじめとする多量の遺物（地鎮関係の石や土器、茶道関係の焼物、食事道具、子どもの遊び道具等）が出土しています。調査により明らかになってきた和歌山城三の丸の武家屋敷（安藤家、水野家、渡辺家、上野家など）での生活や城下町の町屋（東鍛冶屋町）における人々の暮らしぶりを、豊富な発掘調査の出土品を展示して紹介します。

展示予定件数 約400点。（主な展示資料は別紙のとおり）

- 展覧会名称 秋季企画展「発掘された江戸時代の暮らし」
- 会 期 令和4年9月17日（土）～令和4年10月16日（日）
休館日：月曜日（ただし9月19日、10月10日は開館）、
9月20日（火）、9月24日（土）、10月11日（火）
- 開館時間 9時～17時（ただし入館は16時30分まで）
- 入館料 一般：100円 高校生以下：無料
※和歌山市が発行する老人優待利用券をお持ちの方は、本人のみ無料
※団体（20人以上）は2割引
- 会 場 和歌山市立博物館 2階特別展示室
〒640-8222 和歌山市湊本町3-2
TEL：073-423-0003
FAX：073-432-9040

別紙

主な展示資料

①渡辺家屋敷の地鎮に使用された石球

渡辺家屋敷の建物の地鎮を目的として埋められた石球です。これらの石球は東・西・南・北の4ヶ所に埋められ、これらを線で結ぶと菱形を描きます。石球には「法華経」や「大黒天神授文」の一節が墨書されています。渡辺家は湊の正住寺を菩提寺とする法華宗（現在の日蓮宗）の檀家であったことから、これらは法華宗による地鎮の可能性が高いと考えられます。



②上野家屋敷から出土した土器

上野家屋敷の廃棄土坑（ゴミ穴）からは屋敷で使われた碗・皿・鉢などの食器、鍋や搦鉢といった調理具とともに、焼塩壺や徳利なども出土しました。九州の肥前染付磁器や東海瀬戸の磁器や陶器、京・信楽焼の土鍋、備前焼や堺焼の搦鉢等、全国津々浦々の産地のものが混在していることから、江戸時代には現代と同じように様々な商品が、大都市であった和歌山に流通していたことがわかります。



③ 評定所出土の墨書土器

和歌山市役所の北東側には、江戸時代に紀州藩の財政を扱った評定所がありました。評定所はもと会所と称し、明暦元年(1655)にこの地に設置され、江戸時代に描かれた絵図に「評定所」と記載されています。発掘調査で「二分口」という評定所内の役所名を記した土器や評定所内で働いていた役人の名前を記した墨書土器が多く出土し、役所として使われていた特徴を示していました。



④ 鷺ノ森遺跡出土の土人形・泥面子

土人形や泥面子は江戸時代の子どもの遊び道具で、型に粘土を詰めて作られるのが一般的でした。かまどや釜、じょうごなどミニチュアの調理道具があり、ままごと遊びに使われたとみられます。円形の泥面子は、相手の面子をはじいて遊んだとみられます。他には猿や馬、鳩、犬などの動物や型自体も出土しており、江戸時代の子どもの遊ぶ様子がうかがわれます。



橋御門の外
納屋河岸
の図

納屋河岸ハ丁目
五町目ヨリ
至レド
毎朝米市
ありて
賑



京橋御門の外（『城下町の風景—カラーでよむ「紀伊国名所図会」—』（ニュース和歌山）

発掘された江戸時代の暮らし

9月17日（土）～10月16日（日）

協力：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団

- ◆休館日 毎週月曜日（9月19日、10月10日は開館）
9月20日（火）、9月24日（土）、10月11日（火）
- ◆開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- ◆入館料 一般・大学生：100円 高校生以下：無料
和歌山市発行の老人優待利用券お持ちの方は無料
身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者
保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者
は無料
- ◆駐車場 一般駐車場（博物館地下、有料）、
身体障害者用駐車場（市駅側）



上野家屋敷179土坑出土遺物（和歌山城跡第18次調査）

和歌山市立
博物館
(地下駐車場あり)

身体障害者用
駐車場



県道新和歌浦梅原線 至市駅

和歌山市立博物館

WAKAYAMA CITY MUSEUM

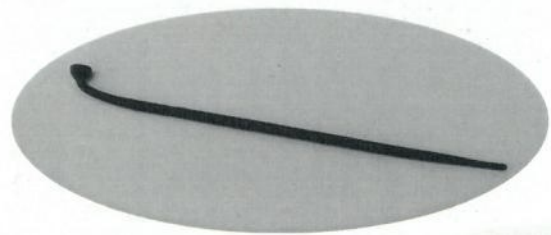
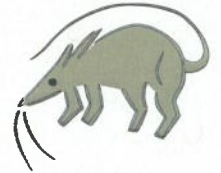
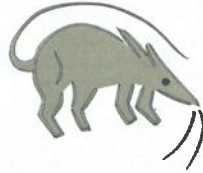
和歌山市湊本町3-2 TEL:(073)423-0003
南海和歌山市駅から徒歩5分



和歌山城跡第34次調査発掘調査風景

江戸時代、城下町和歌山は全国でも8番目の人口だったと言われます。和歌山城三の丸や城下町では人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか。

今に遺された品々からだけでなく、近年の発掘調査でみつかった出土品から、当時の人々の生活を探ります。



煙管



土人形



鬼瓦



肥前染付鉢



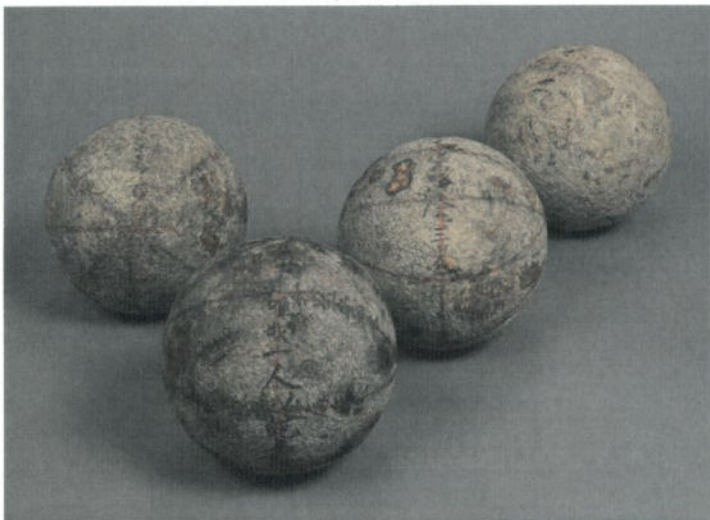
涼炉



安藤家鬼瓦



墨書土器「二分口」



渡辺家屋敷の地鎮で使用された石球(和歌山城跡第34次調査)



土人形・泥面子(鷲ノ森遺跡第3次調査)